

社会福祉法人 比内ふくし会

みずきの家

小規模多機能型居宅介護 サービス評価

◆自己評価

事業所自己評価・・・・・・・・・・・(事-①~⑨)

◆小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

◆実 施 日 令和元年12月19日

◆評価確定日 令和2年2月27日

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和元年10月1日（13:00～13:30）
1. 初期支援（はじめのかかわり）	メンバー	8人

#### ◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2人	10人	1人	0人	13人

#### 前回の改善計画

登録者を24時間・365日サポートしていくことを念頭に置いて、本人・家族から十分な情報をいただく。その中で、必要に応じてインフォーマルを活用したサービスを検討し提案していく。また、職員間で情報を共有し、住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう本人・家族の意向に沿ったサービスを提案していく。初期のサービス提供時の気遣いについても、十分な事前の情報を職員間で理解した上でコミュニケーションをとり、顔なじみの関係を築いていくよう努めていく。

#### 前回の改善計画に対する取組み結果

前回は24時間・365日を支援していくという認識が職員間で薄く、当事業所の関わりの時間が主となっていた。しかし、現在は話し合いの時間を以前よりも多く設けることで職員の意識が強くなり「サービス提供時間以外の時間帯はどのように生活しているのか」を話し合う等、在宅生活を主とする登録者の生活をサポートしていく認識が強くなっている。

#### ◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか？	6	6	1	0	13
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか？	5	8	0	0	13
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか？	5	7	1	0	13
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか？	4	8	1	0	13

#### できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

利用開始前には計画作成担当者が中心に登録者及びご家族より、これまでの生活状況や現在のADL、『本人の望む暮らし』を重点に聴き取りを実施している。その後に支援内容を考案した上で、事業所職員及び関係事業所へ情報を提供し、各専門職が登録者及びご家族が求めるサービスを的確に提供できるよう話し合いを行っている。その中で、事業所ができる・できないサポート内容を明確し、必要に応じてご家族や親戚からのインフォーマルサービスを取り入れ24時間・365日の暮らしをサポートできるよう体制を整えている。

#### できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

初期支援では、顔なじみの関係を早期に構築できるよう職員や登録者間の紹介、事業所内を再度案内する等のオリエンテーションを実施している。その他、人見知りな方で泊まりサービスを求める方への支援についても、初めは通いサービスから提供し慣れてこられた時期を見計り泊まりサービスを提供する等、可能な範囲不安やストレスが軽減できるよう配慮している。しかし、ご家族の意向から通い・泊まりサービスに重点が置かれ、上記の方への対応として、訪問サービスでの関わりは不安軽減の観点から不十分な回数である。

#### 次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

アセスメントの時点で、登録者の性格や意向が事業所に少しでも抵抗が見られた際には、訪問サービスからの支援内容を提案し、安心して事業所を利用していただけるように配慮していく。また、このことはご家族に目的とサービス内容をきちんと説明し、理解をいただいた上で進めていく。事業所として、初期支援の関わりを大切にしていきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和元年10月1日（14:30～15:00）
2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）	メンバー	8人

#### ◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	2人	11人	0人	0人	13人

#### 前回の改善計画

介護計画書の周知が低いこともあるため、利用者一人ひとりの介護計画書を皆が見やすい、確認できやすい場所に変更していく。また、確認後は職員個々に押印していただき共有の漏れを防いでいく。ミーティングの際には、皆が発言しやすいよう環境を整えていく。例えば、一つの決め事について一人ひとりから必ず意見をもらう等の対応を実践していく。また、決められた内容については職員間で差が出ないように申し送り帳やPC記録を十分に活用するほかに、口頭での申し送りを実践することでストレスの軽減に努めている。

#### 前回の改善計画に対する取組み結果

介護計画書については、職員間で情報が共有できるよう写しをとり確認印を押印することで共有の漏れを防止している。職員の意見等の発言については、個々より意見をもらうよう環境づくりに努めているが、発言力に変わらず差が出ている状況。

#### ◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？	4	9	0	0	13
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	3	10	0	0	13
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？	2	11	0	0	13
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かせていますか？	2	11	0	0	13

#### できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

事前面談時には『本人の望む暮らし』に重点を置き、達成可能と予測される目標を設定している。認知症やうまく言葉にできない方へは、性格やこれまでの生活歴、ご家族からの聴き取りを中心に聴き取りを行い、介護計画書に落とし込んでいる。このことを基に、登録者一人ひとりのモニタリングを毎月実施し、職員間で『本人の目標（ゴール）』の再確認とサービス内容の差を軽減できるよう話し合いを行っている。ADLに変化が見られた際には、都度ケア内容を見直し現況に見合ったサポートができるよう努めている。

#### できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

特になし。

#### 次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

継続し対応していく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和元年10月3日（13:00～13:30）
3. 日常生活の支援	メンバー	8人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	3人	10人	0人	0人	13人

前回の改善計画

現在使用しているアセスメント票の写しをとり、別ファイルに綴じて職員間でいつでも確認できる場所へ置くことで情報の共有を図っていく。これを継続していくことで、情報の把握に繋げることが期待できる。また、確認後は各職員が押印することで確認の漏れを防止していく。「以前の暮らし方」を知るためのアセスメント票の項目内容については、項目を追加するのではなく現況のものを継続して使用し、職員皆が理解しやすいよう詳細を記載していくように改善していく。

前回の改善計画に対する取組み結果

アセスメント票については、事業所職員へ利用開始前にカンファレンスを実施し説明・情報の共有を図っている。その中で、不明点や疑問点、提案等を求め新規利用や状態が変化された方へ適切にサポートできるように努めている。その他、情報を確認後には各職員が確認印を押印することで確認の漏れを防止している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？	0	2	9	1	13
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	6	7	0	0	13
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？	0	9	4	0	13
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	3	10	0	0	13
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時に支援できていますか？	1	12	0	0	13

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護については、各委員会が中心となり意向（食事の好き嫌いや入浴時の湯温、排泄方法等）を含めたサポート内容を記載した用紙を介護計画書のほかに作成し、職員間の差がないよう統一したケアに努めている。また、入院後の状態変化や体調不良等による一時的なADLの低下があった場合には、登録者やご家族の意向を確認した後、サポート内容を見直しその場その場に見合った支援を実施することができている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

「以前の暮らし方」の聴取は主に、出生地や配偶者、子供の有無、職歴、嗜好、社会との関わり、定年後の暮らし（生活リズム）、食事・入浴・排泄方法である。この時点で10個以上となるが、職員間での情報共有に差があることが否めない状況。その他、自発的な言動（意見や要望）が困難な登録者に関して、性格やこれまでの生活歴、ご家族からの聞き取りを基に言語化に繋げてきたが、不十分な点も上記からうかがえる。

次回までの具体的な改善計画

（200字以内）

「以前の暮らし方」については、定期的（1ヶ月に1回）にアセスメント票を確認することで把握に努めていきたい。本人の声にならない声を言語化していくことについては、これまでの対応のほかに利用時の表情やしぐさ等も記録に取り入れ、カンファレンス等を活用していくことで心情の言語化に繋げていきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和元年10月3日(14:30~15:00)
4. 地域での暮らしの支援	メンバー 8人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	12人	0人	0人	13人

前回の改善計画

本人のこれまで関わってきた人間関係を知っていくために、アセスメント票に『これまで築き上げてきた人間関係(仮称)』といった項目を追加し、本人・家族より聴き取りを行い職員間で情報の共有を図っていく。本人がどのように過ごしているかの把握についても、事前に本人・家族より聴き取りを行う他に、訪問サービス(安否確認や所在確認)の回数を増やし把握に努めていきたい。このことは、まず初めに独居の方を中心に対応していきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

これまでの人間関係については、事前面談時に現在も繋がりがある方々を聴取し、インフォーマルサービスとして計画に取り入れている。また、事業所が直接携わっていない時間帯にどのように過ごしているかについては、訪問サービスを計画に組み込むことでこれまで以上に登録者の生活スタイルの把握に繋がっている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	9	3	0	13
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2	9	2	0	13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	2	8	2	1	13
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	4	3	5	13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

事前面談時に、登録者と現在も直接関わりのある方々を聴取し、事業所ではサポートできない部分や時間帯に協力を得て対応をいただいている。また、登録後もご家族や親戚等との関係が切れることがないよう、受診の付き添いや買い物、家事、安否確認等を必要に応じて依頼している。また、事業所主催の催し物等にもご家族を招待し、関わりが持続できるよう配慮している。その他、地域資源の活用では近隣地区のサロン、認知症カフェへの参加、大館市で実施している所在不明者防止のための『どこシル伝言板』への登録等を実施している。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

事業所が直接関わらない時間帯に、ご家族と同居されている登録者の方々は、身の周りのことを中心に支援を受けて生活されている。しかし、独居生活を送られている方々に関して、「この時間には何をしていて、この時間にはこの場所にいる」等のある程度の把握はできているが、詳細については後からの聴き取りで把握することもあった。その他、登録者の自宅における地区の民生委員の把握ができない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

独居生活者を中心にある程度の時間帯の把握ではなく、詳細の生活リズムを把握していくために訪問サービスの回数を増やしていくことのほかに、電話での確認等も取り入れて24時間365日の支援を更に深めていきたい。民生委員については地域包括支援センターより、最低、登録者の自宅の分は情報をいただき必要時に活用していくよう把握に努めていきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和元年10月8日（14：30～15：00）
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー 8人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
① 前回の課題について取り組めましたか？	4人	9人	0人	0人	13人

前回の改善計画

今後、地域の資源を十分に活用できるよう事業所のミーティングを活用し、職員間で確認・情報を共有する。その中で、利用者に必要若しくは、生活の質の向上に繋がる内容のサービスがあれば本人・家族へ提案し、住み慣れた地域で楽しく、メリハリを持った生活ができるよう支援していく。気づきについては、些細な情報が急変の前兆確認また、事故防止に繋がっていくことを職員間で認識できるよう、日々のミーティング時に伝えていく。その他、必要に応じて内部研修を開催する。

前回の改善計画に対する取組み結果

地域包括支援センターより情報をいただき、近隣地区のサロンや認知症カフェに参加し地域住民と交流することができている。また、日々の変化についてもミーティング等を活用し職員間での情報共有に繋げることができている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか？	5	8	0	0	13
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか？	7	6	0	0	13
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか？	6	7	0	0	13
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができますか？	6	7	0	0	13

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

近隣地区のサロンや認知症カフェ、大館市が実施している所在不明者防止のための『どこシル伝言板』の活用等、必要に応じて取り入れサポートに繋げている。また、各サービスの提供では登録者のニーズを把握した上で計画に沿い対応することができている。翌月の予定を作成する時点で、対応が困難と予測される場合には、訪問サービスを普段よりも多く取り入れる等、柔軟に対応している。その他、サービスの急な予定変更（追加や中止）や登録者の状態変化等があった場合には、ご家族了承の基で対応を見直すことで、その場その場のサポートに繋げることができている。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

特になし。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

サロンに関しては、他の地区の情報も収集し参加していきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和元年10月9日（14：30～15：00）
6. 連携・協働	メンバー 7人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	3人	8人	2人	0人	13人

前回の改善計画	今後も、運営推進会議の開催と見学・相談・ボランティアの受入れを積極的に行い、地域に根付いた事業所を目指していく。また、地域包括支援センターに情報提供を依頼し、地域の活動や開催されるイベント、会合等があれば積極的に参加し、現状の課題を理解すると共に当事業所についてもアピールしていきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	地域からの相談や見学の受入れ、市内の小中学校及び地元中学校からのボランティア活動の受入れを積極的に行っている。その他、同法人が開催している各イベント（地域交流会・敬老を祝う会）に参加することで登録者の刺激となり、幅広く交流が図れるように努めている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	3	2	0	8	13
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	2	1	1	9	13
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	4	5	3	1	13
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	3	10	0	0	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用開始前や退院前には、各専門職（医療・介護・福祉用具担当者）が集まり、今後どのように支援していくかの担当者会議を適宜開催している。地域各種機関との関わりでは、近隣地区のサロンや認知症カフェに参加し交流を深めている。また、避難訓練では同敷地内の特養と合同で訓練を実施し、比内分署の職員の方々より助言や留意点等を教えていただきながら、日頃より災害に対しての意識を強めることができている。その他、見学や相談、ボランティア、職場体験の受入れを積極的に行うことで地域住民や子供達と交流を深めることができている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
②について、地域包括支援センターより相談等があった場合、当事業所が関わるサービス内容であれば、ご家族へ事業所の概要等（事業所内の案内や利用料金等）を説明しサービスに繋げているが、会議といった形式ではない。地域包括支援センターが主催している会議等は開催されているが、当事業所からのアプローチが不足していたことが理由として挙げられる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
地域包括支援センターに、当事業所が関係する会議が開催される際には、参加させていただきたい旨を今後積極的に伝えていく。参加していくことで、地域の現状や課題が把握できる他、当事業所が地域に理解していただける場ともなることが期待できる。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和元年10月10日(14:30~15:00)
7. 運営	メンバー 8人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0人	7人	5人	1人	13人

前回の改善計画

これまで通り『ご意見箱』の設置や運営推進会議を開催していくが、これまで見学者や相談者に対して意見をいたただく際の質問が漠然としたものであったように感じる。事業所は、何を重視してスキルアップに繋げていきたいのかを明確にした上で質問し意見をいたただくようにする。また、今後地域包括支援センターと連携を強めていくため定期的に意見交換の場をつくり、地域から求められるものや課題等について情報を共有していきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

『ご意見箱』の設置は継続しているが、意見や苦情は確認できていない。見学者や相談者に対しては、重要事項説明書(利用料金を含め)に沿い事業所の概要を説明し理解を求めている。地域包括支援センターとの定期的な連携については、運営推進会議や相談以外等の会議で実施できていない状況である。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	2	5	3	3	13
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	10	3	0	13
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	7	4	2	13
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	5	5	2	13

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①について、介護計画がきちんと実施されているかを確認するモニタリングを登録者一人ひとり毎月出勤職員で実施している。しかし、意見や提案等の発言をする職員は固定してきているのが現状である。②については、普段からの電話連絡や面会時、『家族意見交換会』等で聞かれた意見や要望等に対し、検討を行い業務の見直し・改善に繋げることができている。④については、冬期間、除雪作業が困難な一人暮らしの高齢者宅に出向くボランティア活動に事業所職員全員が登録している。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

③について、運営推進会議以外の地域の方々(サロンや運営協議会等)へ事業所の説明や意見交換は実施できているが、その際に意見や苦情等はこれまでに確認できていない。また、事業所玄関に『ご意見箱』を設置しているが、前記同様に意見や苦情等は確認できていない。④についても、事業所を拠点とした地域住民との交流が不足していることが原因と考えられる。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

他のサロンの開催情報を収集し、両者同意の基で参加させていただき、相互理解を深めていきたい。また、地域包括支援センターが主催する会議へ積極的に参加し、事業所を知っていただくと同時に地域の現状と課題を把握し必要に応じてサービスに繋げていきたい。また、サロンやボランティアの開催場所を当事業所でも実施できることを更にアピールしていきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和元年10月12日(14:30~15:00)
8. 質を向上するための取組み	メンバー	7人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	9人	1人	2人	13人

前回の改善計画

今後、地域包括支援センターと連携を強め、地域連絡会等の開催情報を得ていきたい。また、このような会に参加することで地域から求められるものや課題等について情報を共有できることが期待できる。その他、サービスの質の向上に役立つことを意識し、機会があれば積極的に参加していきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

地域包括支援センターからの相談や運営推進会議等では連携がでているが、定期的に開催される『地域連絡会』への出席はできていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	4	8	0	1	13
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3	9	0	1	13
③	地域連絡会に参加していますか	0	0	0	13	13
④	リスクマネジメントに取組んでいますか	2	10	0	1	13

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①②について、各委員会(食事・入浴・排泄・感染症予防・身体拘束・虐待等)が中心となり、各研修会を開催し、職員のスキルアップに繋げることができていて、外部研修では、介護支援専門員の更新研修に参加しケアマネジメントの在り方について学習し、登録者の地域における総合的なマネジメントに取り組んでいる。④については、介護事故防止検討委員会を毎月開催し、前月に発生したヒヤリ・ハットや事故について全件報告し、再発防止に向けて検討している。

できていない点

200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

連絡会が確立されておらず、③の地域連絡会については参加できていない。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

定期的に地域包括支援センターの職員と情報交換(2ヵ月に1回)を実施していく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日 令和元年10月14日(14:30~15:00)
9. 人権・プライバシー	メンバー 7人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	8人	0人	0人	13人

前回の改善計画	入浴時には、浴室を使用していることが職員間で把握することができる。その際は、汚物処理室を使用しないことを徹底していく。また、万が一のこと想定し浴室にパーテーションを設置することでプライバシーの確保に繋げていきたい。利用者の方々が安心し心地良い環境で入浴していただけるよう配慮する。また、成年後見制度については、今後も定期的に研修を開催していくことで理解に繋げていきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	入浴時にはパーテーションを使用する他に、職員間の声掛けを行っていることでプライバシーの確保に繋げることができている。成年後見制度については、現状対象となる方がおられないが、内部研修を開催することで職員の理解を深めている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	7	6	0	0	13
②	虐待は行われていない	12	1	0	0	13
③	プライバシーが守られている	6	7	0	0	13
④	必要な方に成年後見制度を活用している	0	0	0	13	13
⑤	適正な個人情報の管理ができている	9	4	0	0	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
身体拘束や虐待については、各委員会が中心となり研修会を開催し、職員の理解を深めるとともにスキルアップに繋げることができている。③については、排泄介助を必要とする方であっても周囲に気付かれることがないように、トートバックを活用することでプライバシーに配慮している。その他、入浴援助については着脱介助から入浴まで職員が1名で行うことで、羞恥心に配慮している。また、過度な露出を防ぐようバスタオルを使用することと、職員の目線にも配慮したサポートにあたっている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
④について現在、成年後見制度を活用している登録者がおらず活用には至っていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
④について、今後活用される方が登録された場合、スムーズに対応できるよう定期的に研修会を開催し職員の理解を深めていきたい。	

**小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表**

法人名	社会福祉法人 比内ふくし会	代表者	理事長 佐藤 剛	法人・ 事業所の特徴	社会福祉法人比内ふくし会は、特養・ショートステイ・デイサービス・グループホーム・訪問介護・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等、幅広く事業を展開しており、心のこもった介護や看護、機能訓練、食事の提供に努めている他に、共に助け合い、励まし合っていく人間関係を大切にしながら、利用される方々のことを常に中心に考える事業の運営に心掛けています。 みずきの家では、住み慣れた地域で生活し続けられるよう登録者やご家族の思いに沿ったサービスの提供に努めています。					
事業所名	みずきの家	管理者	管理者 石川 淳		利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	0人	1人	1人	0人	3人	0人	0人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・改善計画について、取り組む内容の開催時期や回数を明確にし、実施していく。	・カンファレンスや内部研修、行事、地域との関わり等について、事業所職員が取り組みやすいよう、予定を立案し開催している。	・昨年に比べ、登録者を24時間365日サポートしていく認識が強くなっている。 ・開所して2年目であるが、自己評価に掲げた改善計画をきちんと実施していることで、より良いサービスにつなげることができている。	・今後も、会議や研修、行事、地域との関わり等について、積極的に取り組んでいくことで、サービスの質向上に努めていきたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	・事業所の看板については、検討し来年度の設置を目指す。 ・玄関前の傾斜については、冬期間の凍結防止のため、融雪剤を使用し転倒防止につなげる。	・事業所の看板を登録者やご家族、地域の方々が見えやすい箇所に設置している。 ・玄関前の傾斜については融雪剤の使用ではなく、除雪の他に福祉車両の駐車スペースを移動したことで、通行せずに転倒防止につなげる事ができている。	・事業所内は、明るくゆっくりと過ごしやすい雰囲気となっている。	・今後、登録者やご家族、地域の方々が余暇時間を活用し、新聞や冊子を読むことができる図書コーナーの設置の他に、広げる空間を提供できるよう、事業所内に観葉植物を装飾することで、安らぎのある場を提供していきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域行事や法人内(各事業所)の交流会には、これまで通り参加し交流を図っていく。 ・地域の方々に事業所を理解していただけるよう、認知症カフェやサロン等に出向き、交流を深める。	・前期同様に地域行事や法人内(各事業所)の交流会に参加したこと、定期的な行事であることを登録者の方々からも理解を得られ始めている。 ・認知症カフェやサロン等に出向くことで、地域住民との相互交流につながっている。	・職員の接遇については特に問題はなく、きちんとした対応である。また、事業所の知名度についても様々な行事やイベントに出向いていることで、徐々に上がってきてているように感じる。 ・地域との関係を維持していくために、地域包括支援センターと連携し、各地区における民生委員の情報を収集し、登録者が住み慣	・今後についても、認知症カフェやサロン、法人内(各事業所)の交流会に出向き交流を深める他、ボランティアの受入れに關しても積極的に行い相互交流を深めていく。 ・地域包括支援センターと連携し、各地区における民生委員の情報を収集し、登録者が住み慣

			連携し、各地区における福祉委員や民生委員の情報を収集し、必要時に活用できるよう関係性を築いていく必要がある。	れた地域で暮らし続ける事ができるよう体制を整備していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・これまでの活動を継続していくと共に、地域包括支援センターと連携を図り、会議や地域行事へ参加していくことで、地域住民と交流を図る。	・登録者の住んでいる地域の方との会議については、運営推進会議の他は、個人情報の観点から実施には至っていない。 ・地域の行事やイベントへの参加については、認知症カフェやサロンを含めて、地域住民と交流することができている。	・本人が住んでいる地域の方を交えた会議については、運営推進会議にて地域の代表者を交えた会議を実施しているが、その他では、未だ実施には至っていない。個人情報の観点から慎重に進めていく必要がある。 ・孤立感なく、これまでの暮らしが継続できるように、これからも地域に出向き登録者の安心と刺激が得られるようサポートしていってもらいたい。	・地域連絡会等の実施はないが、地域包括支援センター主催の会議等へ参加していくことで地域の現状と課題を理解していくことで、登録者の方々が今後も地域において安心した暮らしができるようサポートしていきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・地域の心配な方等の事例が、地域包括支援センター等からの情報で挙がった場合には、検討していく。	・地域包括支援センター職員より、地域においてサポートが必要な方がおられた場合には、都度相談を受けている。 ・運営推進会議では、登録者の活動状況（サービス提供回数）報告や地域との関わり報告、ひやり・はっと報告等を行い、委員の方々より質問や提案を受けた後、事業内で検討し、必要に応じて業務改善（地域交流や環境整備）に努めている。	・運営推進会議にて、地域の心配な方等の事例検討を実施していないが、地域包括支援センターより情報が挙がった場合には、必要に応じてサービスの利用につなげることができている。 ・委員の方々が、それぞれの視点と立場から意見していることで、質の向上につなげができている。	・実際に相談を受けて、サービスの利用につながった登録者のサービス利用前と利用後の心身の変化や満足度について会議内で報告する機会を設け、それぞれの視点から意見をいただく。このことで、サービスの質向上に努めていきたい。 ・事業所内で開催した内部研修の報告を行い、提案や助言いただき職員のスキルアップにつなげる。
F. 事業所の防災・災害対策	・消防訓練や搜索訓練実施時には、地域の方々に声を掛け、可能な範囲での参加を促していく。	・消防訓練の際には、近隣住民へ声を掛け、消防隊員指導の基で協働し訓練を実施することができている。	・相互に危機意識を向上していくためにも、継続し取り組んほしい。声を掛ける住民については、多ければ多いほど実際災害が発生した場合に助けとなるため、範囲を広げて声を掛けていくと良いと思う。	・近隣住民へ今後も声を掛け、各訓練に参加していただくことで両者の理解と危機意識向上につなげていきたい。